

基本目標5 「環境力」の高い人材の育成

1 板橋区の現状

■ 人材育成に関わる環境講座参加者数

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗率	進捗度
人材育成に関わる環境講座参加者数	199人	↗	400人	218人	348人	74.1%	順調

この指標は、区が行っている人材育成に関わる環境講座等の参加者数を集計したものととなります。

2021（令和3）年度の実績値より大きく増加し、進捗率も高水準で維持できました。コロナ後においても、保育園等でオンライン講座の希望があったため、一部のプログラムでは、対面又はオンラインの形式を自由に選べる柔軟な学習環境を提供しました。

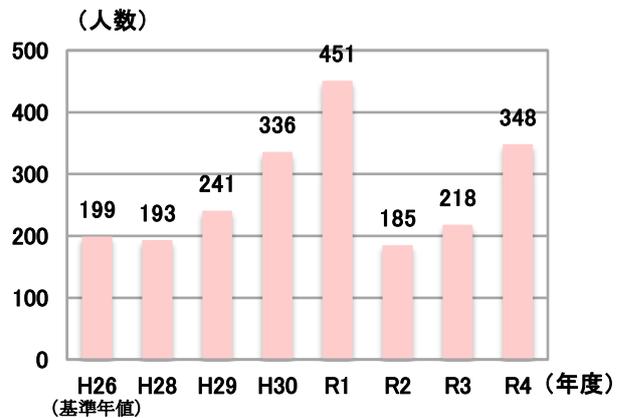


図2-5-1 人材育成に関わる環境講座参加者数の推移

■ 外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗率	進捗度
外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合	76.1%	↗	100%	52.3%	62.2%	0%未満	停滞

この指標は、外部人材を活用して環境学習を実施している区立小中学校及び区立保育園・幼稚園の割合となります。

2021（令和3）年度の実績値より大きく増加しましたが、コロナ後の対応に慎重な部分もあり、基準年値よりも下回りました。今後も参加者の回復状況を見ながら外部人材活用の案内を行いつつ、Web対応になっている出前授業の実施等も引き続き呼びかけていきます。

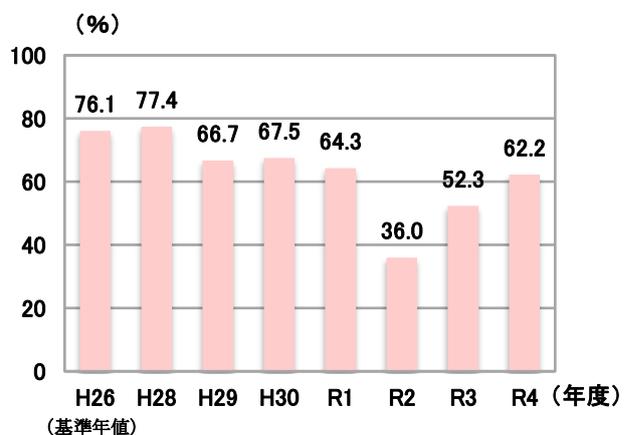


図2-5-2 外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合の推移

■ 環境教育プログラム利用校（園）の割合

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗率	進捗度
環境教育プログラム利用校（園）の割合	74.4 %	↗	100 %	60.4 %	78.4 %	15.6%	漸進

この指標は、板橋区環境教育プログラム（関連P80）を実践している（参考にしている場合も含む）区立小中学校及び区立保育園・幼稚園の割合となります。

2021（令和3）年度の実績値より大きく増加しましたが、進捗率は低水準となりました。一方で「環境学習を独自に実施している」学校園もあるため、各主体それぞれの活動の際に取り組みやすくなるよう、今後もホームページ・SNSで環境教育プログラムの活用例等を分かりやすく紹介し、積極的な利用を呼びかけていきます。

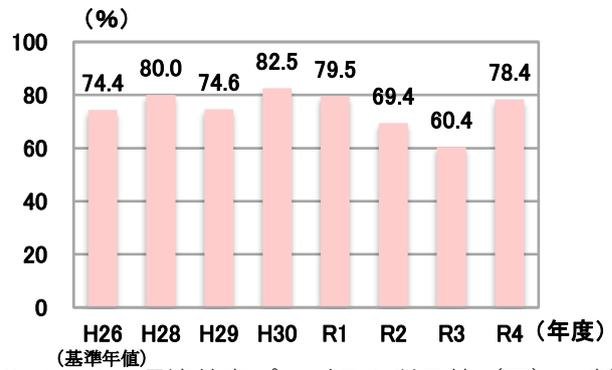


図2-5-3 環境教育プログラム利用校（園）の割合

■ エコ生活（エコアクション9）の実施状況

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗率	進捗度
エコ生活（エコアクション9）の実施状況	75.0 %	↗	100 %	82.3 %	83.8 %	35.2%	漸進

この指標は、地球温暖化防止のために暮らしの中でできる9つの行動（エコアクション9）の実施率で、講座等の参加者アンケートから集計したものととなります。

2021（令和3）年度の実績値より微増となりましたが、進捗率は低水準となりました。今後も引き続き、講座・イベント等のほか、ホームページやSNSを活用し、引き続き普及啓発を図っていきます。

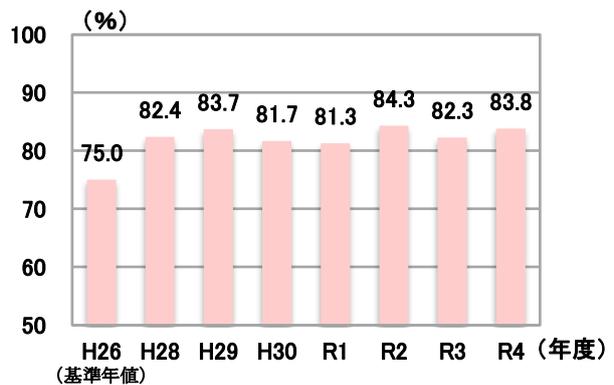


図2-5-4 エコ生活（エコアクション9）の実施状況の推移

エコアクション9

区が実施している普及啓発事業の一つで、地球温暖化防止のために暮らしの中でできる9つの行動です。積極的に実践しましょう！

- ①冷暖房は適切に使っている（室内温度目安：夏 28℃、冬 20℃）
- ②テレビを見ていないときは消している
- ③照明はこまめに消し、買い替え時には LED ランプを選んでいる
- ④冷蔵庫の温度は適切に設定し、開けている時間を短くしている
- ⑤調理の火力をこまめに調節している
- ⑥シャワーのお湯はこまめに止めている
- ⑦お風呂はできるだけ間を開けずに入浴している
- ⑧できるだけ公共交通機関・自転車・徒歩で移動し、車を運転するときは燃費の良い運転を心がけている
- ⑨マイボトル・エコバッグを使っている

2 環境施策の活動状況

(1) 環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成



エコポリスセンター

エコポリスセンターは、人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現をめざし、環境教育・環境学習の推進、環境情報の発信、環境活動の拠点施設として、1995(平成7)年4月に開設されました。年間を通して、様々な展示やイベントを実施するほか、夏には緑のカーテンを育成し、区内屈指の緑のカーテンを間近に鑑賞できる機会を提供しています。

また、エコポリスセンターは、環境について「知る・気づく」→「考える・学ぶ」→「行動する」→「交流する・育てる」という

自然なステップアップが図れるよう施設展示や事業を展開しています。この学びのサイクルの実践として、環境イベント・環境啓発事業、環境学習事業、指導者養成事業、個人・団体・企業の育成・支援事業といった各世代・各段階の学びのレベルに合った形態・内容の事業を企画し、区内の環境教育の推進を図っています。

今後も地域と密着した環境教育の拠点施設として、区民や事業者、団体などと連携を図り、良好なパートナーシップを築いていくための活動に取り組んでいきます。



■ エコポリスセンター



■ 緑のカーテン

関連するホームページ
(エコポリスセンター)

<https://itbs-ecopo.jp/>

関連する
活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗度
環境講座・教室開催回数 ^{※1}	677 回	↗	338 回	583 回	後退
環境講座参加者数(人材育成に関わる講座を除く) ^{※2}	22,898 人	↗	11,451人	15,261 人	後退
環境学習講師派遣人数 ^{※3}	363 人	↗	156 人	258 人	後退
環境学習施設の入館者数 ^{※4}	270,195 人	↗	250,761 人	287,511 人	進展
環境講座受講前後の知識・考え方の変化 ^{※5}	63 % ^{※6}	↗	86.4 %	86.4 %	進展

- ※1 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の開催回数を集計したもの
- ※2 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の参加者数を集計したもの
- ※3 出前講座の際にエコポリスセンターが派遣する指導者等の人数
- ※4 エコポリスセンター、熱帯環境植物館、リサイクルプラザの入館者数を合計したもの
- ※5 エコポリスセンターの環境講座等を受講した前後で、「環境」についての知識や考え方に変化があった者の割合で、講座等の受講者アンケートから集計したもの
- ※6 平成28年度値

今後の対策

コロナによる自粛ムードの緩和により、多くの指標において昨年度実績値を大きく上回ることができました。環境講座・教室については時代のニーズに応じたテーマや内容を企画し、実施方法についてはコロナ後においても対面またはWeb形式を選択できるようにすることで、幅広い参加者が満足できる事業を展開していきます。

学校における環境教育

① 板橋区環境教育プログラム

幼児から大人を対象にした環境学習のためのプログラムです。環境学習の知識や経験の少ない指導者でもすぐに利用できるような、具体的で活用しやすいプログラムを掲載しています。児童館、保育園、幼稚園、小中学校、

あいキッズなどで活用されています。

プログラムはインターネットで公開し、どなたでも使用することができます。学習シートや参考資料などもダウンロード可能です。

関連するホームページ
(板橋区環境教育プログラム)

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kankyo/kyoiku/1015347/index.html>



■環境教育プログラム（ホームページ画面）



■プログラムの例：コロコロお絵描き
どんぐり編
(絵の具をつけたどんぐりを画用紙の上で転がし、お絵描きをするプログラム：未就学児対象)



■プログラムの様子（ホームページ上では動画を公開しています。）

② 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム

◆ 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムの概要

【保・幼・小・中で一貫したねらいをもって実施】

教育委員会では、2011（平成23）年4月に「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」を策定しました。これは、保幼小中一貫型のカリキュラムであることが大きな特徴です。板橋区の小中一貫教育カリキュラムである「板橋のi（あい）カリキュラム」としても位置付けられています。4歳児から中学校第9学年までの11年間を、子どもの発達段階に応じて4期に分け、それぞれの段階における目標と、子どもたちが身に付ける資質・能力を系統立てて示しています。これによって、就学前から小中学校で「持続可能な開発のための教育(ESD)」(※P98)の考え方に基づいた系統的な環境学習の実施を図ってきました。

【カリキュラムの内容】

発達段階に合わせて、以下のとおり3つの段階を設けています。

【FEEL】

環境を身近な問題として捉える感受性、共生や他者に対する思いやりの心を育成していく段階です。この段階で育む感受性や思いやりの心が、今後の問題解決を進めていく原動力になると考えます。

【THINK】

問題解決の活動を通して、環境に対する見方や考え方を育成していく段階です。

【ACT】

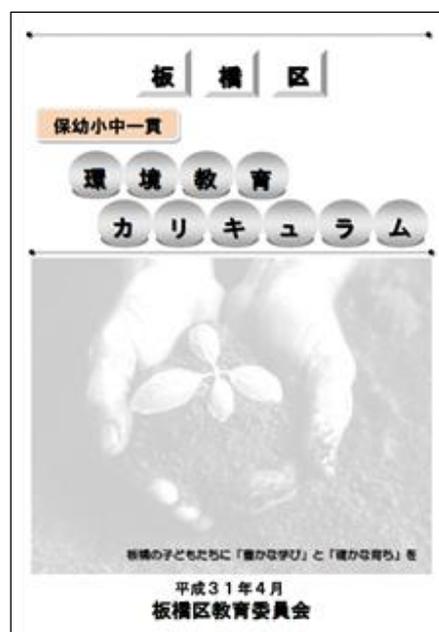
これまで身に付けた力を生かし、身の回りの環境に働きかける実践力を育成する段階です。

【環境を捉える視点について】

環境は様々な視点で捉えることができますが、本カリキュラムでは「循環」「多様性」「生態系」「共生」「有限性」「保全環境」の、6つの視点を設定し、内容的に偏りがないようにしています。加えて、学習活動については、「身近な環境」から「全地球規模の環境」への視野の広がりや、「自らの生活を見直すこと」から「地域社会生活に自らが働きかけていくこと」へというように、発達段階に応じて、同じ視点で繰り返し学べる構成になっています。

また、2017年（平成29年）の学習指導要領の改訂を踏まえ、学習指導要領の内容と、板橋区全体で取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）の視点を取り入れ、2019（平成31）年4月に改訂を行いました。

中学校学習指導要領解説理科編が一部改訂され、脱炭素社会の実現について取り上げられることも考えられることが示されており、今後は、そのような視点を踏まえた実践も検討していきます。



◆ 板橋区環境教育テキスト
「未来へ」の概要



板橋区環境教育カリキュラムに基づく学習活動を各学校で効果的に実施するため、教育委員会事務局指導室では、2008（平成20）年度に小学校第3学年・第4学年向け「未来へ1」と小学校第5学年・第6学年・中学校第7学年向け「未来へ2」、2009（平成21）年度に中学校第8学年・第9学年向け「未来へ3」の3冊を作成しました。

自然や文化、産業も含めた身の回りの全てを環境と捉え、その「多様性」に気付き、自分の生活との「つながり・かかわり」についての理解を進め、その上で自らが環境に働きかける実践力を育成していけるような内容になっています。テキストは、区内小中学校全児童・生徒に配付しています。

さらに、教師用指導書も作成し、「未来へ1・2」「未来へ2・3」をそれぞれ一冊にまとめ、教員が内容面での見通しをもって指導できるようにしています。

「未来へ」は、その時々ので社会の要請に応じて改訂を重ねてきました。2015（平成27）年の改訂では、より郷土板橋の特色を感じさせる内容にし、柔軟に内容を選択できるようにしました。また、2019（平成31）年4月の改訂では、SDGsの視点から内容を見直しました。

板橋区の子どもたちがこのテキストを活用し、ESDの考え方に基いた授業を通して学び、SDGsの達成に向けて、知恵と実践力を身に付けてくれることを願っています。

◆ 区立小中学校での実践

(ア) 校庭の自然を生かした環境教育の取組



区内の小中学校では、ピオトープ（※P97）や芝生など、校庭の自然を生かした環境教育の学習に取り組んでいるところもあります。

総合的な学習の時間では、ピオトープと人との関わりの視点で、環境保全の大切さと持続可能性について、子どもたち一人ひとりが考えを深める学習をしています。

日常のピオトープや芝生の管理は、学校支援地域本部やあいキッズと連携し、環境ピオトープ委員会の子どもたちを中心に行っています。校庭の気温とピオトープの水温を測って記録したり、芝刈りや雑草取り、ピオトープに生息する生き物を紹介する掲示物を作成したりしています。

また、年に1回、環境保全に携わる地域コーディネーターの方にインタビューをして作成した動画を、児童朝会で紹介しています。

こうした活動を通して、持続可能な社会づくりの担い手となるための力を育てています。

ユネスコスクール、子ども環境大使の取組



■ 令和5年度 任命式の様子

ユネスコスクールとは、ユネスコの理念を実現するための実践を行う学校で、世界中の

学校との交流を通じて情報や体験を分かち合うこと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざすことを目的として活動を行います。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けています。

板橋区では、2023(令和5年)年11月現在、板橋第二小学校、板橋第七小学校、緑小学校、高島第一中学校の4校が加盟校として、西台中学校が候補校として、蓮根第二小学校、桜川小学校の2校が申請校として、ESDの考え

方を取り入れた環境教育を推進しています。加盟校及び候補校、申請校の子どもたちは、エコポリスセンターから「子ども環境大使」として任命され、各校の特色を生かした取組を行い、ESDを推進します。

2022(令和4)年度は、板橋第二小学校、板橋第七小学校、蓮根第二小学校、緑小学校、桜川小学校、西台中学校、高島第一中学校の7校が、子ども環境大使としての取組内容をまとめ、エコポリスセンターで館内展示及びWeb展示を行いました。

(2) わかりやすい環境情報の発信



環境情報の発信

エコポリスセンターでは、環境への「興味・関心」を深めるため、様々な媒体を用いて、環境に関する情報を提供しています。紙媒体のほかにホームページ・SNS(X(旧ツイッター)・フェイスブック・インスタグラム)なども用いて、多くの方の目にとまるよう、幅広く発信しています。

関連する活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗度
区から発信する環境情報の更新回数※	356 件	↗	893 件	1,523 件	進展

※ エコポリスセンターの公式ホームページ、X(旧ツイッター)、フェイスブック・インスタグラムの情報を更新した回数の合計を集計したもの。



■エコポリスセンター X(旧ツイッター)



■エコポリスセンター フェイスブック



■エコポリスセンター インスタグラム

環境イベントの開催

環境への「興味・関心」を深め、「参加・体験」していただく機会として、様々な環境関連のイベントを開催しています。環境保全活動の実践につなげるため、「環境なんでも見本市」などのイベントを実施し、意識啓発を行っています。



■環境なんでも見本市（オンライン交流会）



■板橋エコみらい塾（オンライン講演会）

関連する活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 令和3年度	実績値 令和4年度	進捗度
環境イベント等開催回数※1	244 回	↗	82 回	181 回	後退
環境イベント等参加者数※2	96,949 人	↗	12,983 人	22,487 人	後退

※1 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境イベント等の開催回数を集計したもの。

※2 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境イベント等の参加者数を集計したもの。

今後の対策

コロナによる自粛ムードの緩和により、開催回数・参加者ともに昨年度実績値を大きく上回ることができました。環境なんでも見本市においては、コロナ後においても引き続きWebを利用しつつ館内でも展示やワークショップを実施し、より広範囲に環境啓発を行いました。今後もオンラインでの講演会などWebを活用したイベントを実施し、事業の幅を広げていきます。

3 関連計画

板橋区環境教育推進プラン2025

① 策定

持続可能な社会の構築に向けて、環境教育を計画的かつ効果的に進めるため、2007（平成19）年2月に「板橋区環境教育推進プラン」を策定しました。その後、環境教育推進法の改正を踏まえ、さらに連携・協働して進めていくことをめざし、2016（平成28）年3月に「板橋区環境教育推進プラン2025」を策定しました。

② 位置づけ

環境教育等促進法に基づいた計画です。また「板橋区環境基本計画2025」の基本目標

5『「環境力」の高い人材の育成』と基本目標6「パートナーシップが支えるまちの実現」を具体的に示した計画でもあります。

③ 期間

2016（平成28）～2025（令和7）年度までの10年間

④ 成果指標

表2-5-1のとおり10項目の指標を設定し、環境教育の進捗状況を測るものさしとして使用しています。また、各指標における2022（令和4）年度の実績値は表中の各参照ページをご参照ください。

表2-5-1 板橋区環境教育推進プラン2025の成果指標

	板橋区環境教育推進プラン2025の成果指標	2022（令和4）年度 実績	参照ページ
1	全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数	16,675人	P86
2	環境講座参加者数	15,261人	P79
3	環境教育プログラム利用校（園）の割合	78.4%	P78
4	人材育成に関わる環境講座参加者数	348人	P77
5	環境学習講師派遣人数	258人	P79
6	環境登録団体数	25団体	P87
7	エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数	738人	P86
8	外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合	62.2%	P77
9	エコ生活（エコアクション9）の実施状況	83.8%	P78
10	環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合	86.4%	P79

関連するホームページ
（板橋区環境教育推進プラン2025）

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kan-kyo/kyoiku/plan/1006002.html>